

学校の時数をどうするか

現場からのカリキュラム・オーバーロード論

一般にカリキュラム・オーバーロードは、「カリキュラムにおいて、学校や教師、生徒に過大な負担がかかっている状態」と捉えられている（白井俊2020）。今回の講演会では、現場からのカリキュラム・オーバーロード論に着目する。週29コマの標準時数は子どもの生活に合っているのか。標準時数の変遷を現場の経験から検証するとともに、変化の激しい学習指導要領のあり方についても現場の事実から問題提起する。

なが た まもる
永田 守さん

1977~2017の5つの標準時数を
兵庫の公立小で経験

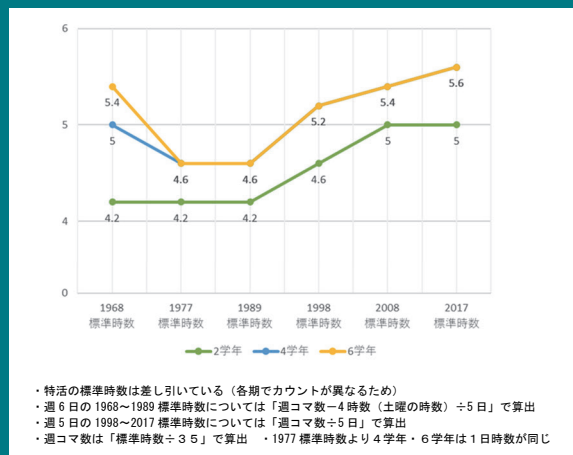
みず もと きみ のり
水本 王典さん

1977~2017の5つの標準時数を
北海道の公立小で経験

みず の さ ち こ
水野 佐知子さん

1998~2017の3つの標準時数を
神奈川の公立小で経験

図表 小学校の標準時数による平日1日時数の変遷



2023年 **10月8日** 14:00 ~ 17:00

対象 教職員・学生・市民・メディア（先着50名で締め切り）

- 参加される方はお名前ご所属等を司会の大森直樹（東京学芸大学） omori@u-gakugei.ac.jp までご連絡ください
- 当日13:20までにズームのURLをお知らせします **13:50入場可**
- 関連研究『教育実践アーカイブズ10特集 学校の時数の歴史と課題』は <https://www2.u-gakugei.ac.jp/~omoriken/> に掲載